

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0172900656, NPO法人 こうえい会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0172900656-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900656-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., タンジェント株式会社, 北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの特性を生かし、少人数だからこそ出来る個別ケアの実践に取り組んでいる。希望を伝えられる利用者さんには、可能な限りご本人の望む支援を行い、ご本人の喜びの実現が出来るよう、ご本人の意向を話せる関係性の構築、雰囲気作りに取り組んでいる。
・日常的に利用者さんからはニーズを把握するように努め、ご家族と連絡を密にし、体調、認知症状、日常生活の様子等を報告し、その都度ご本人、ご家族と対話しそれぞれの思いを確認しながらケアを行っている。
・日頃より医療機関と連絡を密にし、体調不良時には医療機関による的確なアドバイスの元、早期に対応する事で利用者さんの病氣に対する早期相談、早期対応、早期治療、病状の悪化防止に努めている。施設内においては訪問歯科、訪問マッサージ、往診等他職種との連携を強化する事で施設内において可能な限り環境を変えことなく利用者さんの体調管理を行うが出来るよう、地域にあるネットワークを生かせるように努めている。
・勉強会、カンファレンス、OFF-JT、OJT共に認知症ケアについて、深く学び一人一人の認知症状に合わせた対応を行う事で対応力の幅を確保し、利用者さんの安全、安心した生活を維持できる様、日々学びに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川環状線程近くのNPO法人(特定非営利活動法人)が運営する木造モルタル平屋建て2ユニット(定員:18名)の開設16年目のグループホームです。
開設以来、理念を基本に職員教育やケアサービスの質の向上等に「ぶれずに」取り組み、利用者の生活の場を支えるため職員間の連携、チームケアに徹しているとともに職員の心理状況を把握しながら悩みへの対応や定期的な研修会の開催、設備の更新等で就業環境の整備に努めている。
また、花壇の整備や清掃活動などの町内会行事への協力や日々のスーパーでの買い物、馴染みの喫茶店での喫食、季節に合わせた花見やりんご狩り、動物園や花フェスタ見物など一人ひとりの希望に沿って、普段では出かけられないような場所でも戸外に出かけられるように支援している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (1-4), and Achievement Level (1-4). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding user needs, staff availability, user independence, staff support, user outdoor activities, user health/safety, and user satisfaction.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目に着く所に提示し、職員全員：勉強会、OJT等で理念の意味、目的等の再確認をしている。またケアの方向性を考える上で常にスタッフ間で理念を確認し合い、理念に基づいたケアを目指し取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念をつくり、内部研修会で理念について話し合う機会を設け、開設以来その理念達成に「ぶれずに」取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	食材、日用品は近隣のスーパーを利用し、地域の中で日常生活を送れるよう支援している。可能な利用者さんは町内会の行事(清掃・花の水やり・花壇作り等)にも参加し社会参加出来るよう支援している	花壇の整備や清掃活動などの町内会行事への協力、日々の馴染みのスーパーでの買い物や喫茶店での喫食など地元の人々との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長が様々な研修(認知症サポーター養成講座)の講師として、認知症をテーマに講義を行ったり、運営推進会議の際、民生委員、町内会長等の方々に認知症のケア、対応、グループホームでの生活、役割について等をテーマあげ、地域に向けて認知症ケアの情報を発信している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に一回、運営推進会議を実施している。民生委員、町内会長、家族、地域包括センター職員にご参加頂いている。内容はその時々に応じ、認知症ケアをテーマにしている。又実際にそこで得られた意見、要望、提案は事業所内でも検討し、意見を反映している。	定期的に運営推進会議を開催して、医療連携や困難事例研究、事業所内の活動状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営者及び管理者は市の集団指導、市主催の研修会に積極的に参加している。不明な点は市の担当部署へ確認しながら行っている。又実際に市の監査指導係に出向き直接相談する等密に連携を取っている。制度上適応となる利用者さんにはさまざまな制度を活用して頂けるよう、ご家族へ情報提供すると共に橋渡しを行っている	市担当者とは、市主催の研修会参加や日常業務を通じた相談や助言を得るなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	こうい会独自の身体拘束規定があり、勉強会等で倫理的学びを行い、身体拘束をしないケアの実践を行っている。スピーチロック、ドラッグロックにならない様、職員と共にケアの振り返りを行い、ケアの検討、医療機関への相談を繰り返しながらケアを行っている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を法人独自の身体拘束規定をつくり、身体拘束廃止や高齢者虐待防止のための内部研修会を開催して、倫理や知識を深め正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会にて取り上げ心理的虐待、身体的虐待等について項目毎に学び考える機会を持っている。同時に今現在のケアを振り返り、常に虐待に当たる行為はないか等お互いのケアを確認し、振り返る事で互いに虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長、管理者は権利擁護に関する研修や成年後見人制度についての研修に積極的に参加し、勉強会等で職員へ内容を報告している。現在成年後見人制度を利用している方がいます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は、十分に時間を取り、数回面談し丁寧に説明している。質問、疑問についてはいつでも相談を受け、理解が得られるまで、話し合いを重ねている。又、可能であればご本人に入居前に施設を見学してもらい安心して入居して頂ける様に支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常にご本人、ご家族と色々なことを話し合える環境作りを心掛けている。利用者さんの意見、要望については、可能な限りご本人の希望に近づけるよう努めている。言葉で伝えられない利用者さんに対しては、日々の観察からご本人の思いを考察し、色々な可能性を考えながらケアを行っている	利用者、家族等が意見や苦情等を言い表せるように苦情等の申し出先を明示し、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、家族アンケート結果から家族からの信頼が厚いことが伺える。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来る限り、職員と話す機会を多く持ち、自由に意見を出せる、話し合える環境に努めている。その中で意見、要望があった際は、施設長、各管理者へ相談し、主任会議等の場で検討。可能な限り意見を反映できるようにしている	内部研修会開催やミーティングを通じて、職員からの意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるよう努めている。また、設備の更新や研修会の開催、資格取得への支援等で就業環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と話す機会を多く持ち、職員の気持ちを聞くよう心掛けている。又職員一人一人に合わせたOJTの方法を選び、現場で意欲的に業務に取り組めるよう支援している。こうえい会として資格取得支援、研修への参加等、本人のモチベーションアップに繋がるようサポートしている。それぞれの力、実績等に合わせ、給与にも反映している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はそれぞれのスタッフの実力、特性、経験実績等を生かしながら現場でのOJTを進めている。又、月に一回の勉強会を継続し、その都度現場に沿った内容を主任会議の場で検討し学んでいる。職場外での研修の情報を発信し、職員が学ぶ機会を多く持てるようにしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修等の際に、同業者の方と交流し、お互いに情報提供、ネットワークの場としている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず本人と面接し、本人の思い、今後の不安等についてゆっくりと話しを聞き、不安を軽減出来る様努めている。又自宅での生活状況等を確認し、可能な限り、環境によるストレスを軽減できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、面談を数回行い、時間を掛けてご家族の思いを聞き、不安を感じる事、要望等を聞き取り、ご家族が入居の際に感じる不安を少しでも軽減出来る様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に他のサービスも必要に応じて利用できる事を説明する(訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージ、訪問理容、往診等々)		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の負担にならない様にその人にあった作業、を分担し、役割を持つ事で共に生活している意識を持って頂けるよう支援している。その際、ご本人の力を発揮できる機会を作り、感謝の気持ちを伝える事で自信にも繋がり、愛宕館の一員であるという認識を持てるよう支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアを開始する際、必ずご家族にケアの内容を説明しご家族とよく相談しながら、ケアの方向性を決めている。ご家族の協力の元、手紙や電話、面会に来て頂く等共にケアにご協力頂いている。ご家族にも行事に参加してもらい、利用者さんの生活を維持していくようにしている。又昔の様子、生活歴等を教えて頂くことで、現在のケアに生かしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人との交流、馴染みの人間関係、馴染みの場所等、出来る限り、本人が大切にしてきた環境、人間関係を維持できるよう支援している。(年賀状、手紙等)時には古くからの友人が施設に立ち寄ってくださることもあります	花壇の整備や清掃活動などの町内会行事への参加や日々のスーパーでの買い物、馴染みの喫茶店での喫食など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が、自然に会話等が楽しめるよう、職員は時に見守り、時に会話の橋渡しを行っている。利用者さん同士が過ごしやすいう、利用者さん同士の関係性等を見極め、調和をとれるよう座席等の配置に最善の配慮を行っている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のお見舞いや、退去された後にも転居先の病院や施設への情報提供等を行っている。退去されたご家族からウエスを提供して頂いたり、現在運営推進委員として、施設にご協力頂いている方もおられます		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さん、それぞれの思いに添った生活が出来ているが、日々の観察等からアセスメントしている。毎日の申し送りや月1回の勉強会、カンファレンスでは、お互いの情報を出し合い検討しながら、より良いケアに努めている。	センター方式を活用して生活歴の把握やアセスメントの実施、カンファレンスなどで職員間で情報を共有して、チームケアを推進しながら本人本位に検討している。	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活状況をご家族、医療機関、他利用施設等からも情報を頂き、生活歴等からアセスメント、情報を分析しながらケアを実践している。入居後も不明な点があれば前施設、医療機関、家族等に確認しながらケアを行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合ったペースで、生活出来る様支援している。支援が必要な部分と自立できる部分を見極め、不用意な介助は行わずに残存機能を活かせる関わりをする事で意欲や自信を持ちながら生活出来る様支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんが日々の生活からどんな生活を送りたいか等、本人のニーズ、思いを探り、カンファレンス等で職員全員で検討し、ケアプランを作成している。職員と意見交換しながら、ケアを統一し、チームケアに取り組んでいる	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意向や要望、医師及び看護師からの指導や助言、カンファレンス、モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活の様子やバイタル等、ケアの内容を日誌に記入し、特変事項を個別ケアノートに記入して情報を整理している。また、必要に応じて認知症状の変化シート等その時々々の症状に応じて活用し、職員全員で変化を把握・分析しケアの統一を図っている。申し送りの際は、連絡帳を使い職員間で情報を共有し、毎月カンファレンスを開催しケアの検討・見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズは常に変化する事を意識しながら、日頃より本人や家族の意向を確認しケアを進めている。又、その時々々の希望の変化に柔軟な対応を心掛け、様々な分野での情報を収集し、本人へ反映できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の買い物は近隣のスーパーへ買い物へ行くことを日課としている。又季節に合わせて果樹園、動物園、花フェスタ、公民館等の催事情報を集め見学出来るよう支援している。出来る限り社会との接点を継続できる様にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を確認した上で主治医や受診病院を決定している。体調に変化があった場合は随時医療機関に相談、受診等を行っている。受診時は医師に家族の希望も伝えられるよう配慮している。又、それぞれの本人の主治医との話し合いの流れを職員に周知し、受診時は全職員が対応できるようにしている。	受診は、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また定期受診や往診、通院への支援、日常の健康管理で適切な医療を受けられるよう支援している。また、受診結果は家族に情報提供されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者さんのバイタル、表情、言動等から、体調の変化に早期に気づき、職員間で情報を共有し観察している。また日頃より医療機関と相談できる関係を構築し指示を仰ぎながら対応している。医療連携により24時間オンコールの為、必要に応じて電話で看護師にアドバイスを受けながら利用者さんの体調管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診の際医療機関に利用者さんの病気の経過・生活状況を書面・口頭で伝え、入院の際には書面を作成しスムーズに状況を引き継げる様にしている。医療機関の看護師・相談員と綿密に連携をとり、退院後の生活もスムーズに移行できるよう支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針を家族に伝え、その上で重度化した場合や体調に変動があった場合は早期に医療機関、家族、事業所の三者で話し合いを持っている。その際、覚書などの作成を行い書面での確認も遅こなっている。ご本人の意向が確認出来ない場合はご家族の意向とご本人の病状、グループホームで可能な状況等を勘案した上で三者で方針を定めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら指針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会やカンファレンス等で、緊急時に備えて緊急連絡先、持病、薬剤情報等の確認を行っている。利用者さんの体調・状況の変動があった場合等は情報は全員で共有し、把握に努めている。全職員が対応できるよう緊急時の書類は一つに情報をまとめる等、環境整備にも努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は全職員が年に二回、その都度災害、出火想定を変えて実施している。訓練後は職員と課題、問題点を検討し、対応策を講じ、必要に応じて改善している。	救急救命講習を定期的に行い、昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施している。また、避難経路や消火器の設置場所の確認、地域の人々との協力体制の確認などしている。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念に則り、利用者さんの尊厳を大切にケア出来る様、全スタッフが定期的に確認し合っている。常に本人のプライバシーに配慮したケアを意識し実践している。日々のケア時や勉強会等において、不適切な対応はないか、確認し合い、自分たちのケアを振り返り、意識の統一を図っている。	不適切な言葉かけやケアサービスがないように職員間で確認している。また、一人ひとりの人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねるような不適切なケアがないよう職員に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に対し気兼ねなく思いや希望を話して頂ける様、人間関係の構築を常に心がけている。また、本人の意向を出来る限り実現出来る様、その時々に応じてスタッフの体制を整え実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者さんが主体である事を常に意識しながら、日々変化する思いや体調を観察しながら利用者さん自身が安心できる生活が送れる様配慮している。介護者の一方的なケアにならない様、職員同士注意を払い支援している。本人の希望の時間に希望の事を行えるような環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容サービスを利用し、外出が困難な方でも館内で整髪できる様支援している。外出の際は、各々お気に入りの服装などを選んで頂き、外出する楽しみを一層感じて頂けるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好み・嚥下状態に合わせた食事を提供しています。利用者さんにもリクエストを聞き、メニューを一緒に考えたり、外食をする等し雰囲気を変える等の工夫をしたり、職員も一緒に食卓を囲む事で楽しい時間を過ごしていただけるよう支援している。	献立を一緒に考えたり、職員と一緒に食材の買い出しや調理の準備など食事を楽しめるよう支援している。また、個々の嗜好の把握や嚥下状態に合わせた食事を提供している。水分・食事の摂取量を記録して、栄養バランスにも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事表で、一人一人の食事・水分摂取量を確認している。水分・栄養が不足している時は、ゼリーでの水分補給や高カロリードリンク等で捕食を行っている。又、一人一人必要な栄養、水分量が違う事から医療機関に相談しながらそれぞれの目標を設定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと寝る時に義歯を預かり洗浄しています。自力で歯磨き出来る方は、近くで見守り、声かけし、最終洗浄は、職員が行い清潔を維持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便表で一人一人の排便パターン等を確認し、出来る限りトイレでの排泄が出来るように促している。又、ご本人の常態に合わせた排泄用品(吸収量、大きさ、形等)を選択し、失禁によって、自尊心が傷つかないように配慮している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるタイミングを見て誘導し、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表で排便状況を確認している。便秘傾向の方には毎日便の状態(硬さ、量等)を確認し下剤の量を微調節している。又、その方々の状態に合わせて乳製品を提供したり、野菜を多く取り入れたメニューを作成し、腹部マッサージ、体操をする等、身体を動かす便通が良くなるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	毎週火・金曜日に入浴しているが、利用者さんの体調、希望によって時間・曜日を調節し入浴している。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に入浴支援をしている。また、浴槽の設備を更新して入浴し易い環境の整備に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は作業・運動等の活動を通して、夜間はゆっくり休むと等、生活のリズムを作れるように促している。体調の悪い時は無理をせず様子を見て声かけし休んで頂く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をいつでも確認出来るようにしている。職員一人一人が薬の副作用等、薬に関する知識を深める事で、薬の副作用による利用者さんの変化を見逃さないようにしている。実際に薬の副作用を発見し、早期に内服を中止した事例もいくつかあった		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのニーズに合わせて、力を発揮し、喜びを実現できるよう支援している。例えば散歩、外食、ラジオ体操、足踏み運動、家事、テーブルゲーム、昔の歌を唄う、パズル等ご本人の希望、体調に合わせて楽しみを持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に合わせて買い物や散歩をしている。時にはご家族と一緒に外出できるようご家族と日程を調節する等、個別での外出も支援している。又、季節毎に行事を(花見、お祭り等)計画し外出をしている。柔軟な業務体制を組み、出来る限り希望に沿って外出できるようにしている	花壇の整備や清掃活動などの町内会行事への協力や日々のスーパーでの買い物、馴染みの喫茶店での喫食、季節に合わせた花見やりんご狩り、動物園や花フェスタ見物など一人ひとりの希望に沿って戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を持っている方は家族の同意の元で行い、安心感を得て頂いている。又、支払が可能な方は、お金を支払う支援をすることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける、受ける、手紙を書く等ご本人の希望に沿って支援し今までの関係性を断ち切らない支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは折りたたむタイプの手すりを設置しており、利用者さんによって手すりが必要な方も安全に排泄が出来る様環境整備している。又、それぞれの利用者さんの好みに応じて、居室に花や絵を飾る等、過ごしやすい環境を作っている	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、季節毎の飾りつけや行事の写真が貼られており、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さんの生活は主にリビングであり、身体状態、コミュニケーション能力に合わせ椅子、ソファを提供し、配置している。居室生活を好む方は、職員が常に目の届く居室を提供している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた家具や趣味の物(鉢植え、ぬいぐるみ)等、馴染みの物を持ち込む事で、自宅での生活に近い環境作りを心掛け、安心して過ごしやすい空間を作っている	居室には、使い慣れたタンスや寝具、思い出の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるように生活環境に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには利用者さんの身体状況に合わ、手すりを設置したり、段差を無くしている事で、利用者さんの立位、歩行が安全に出来るようにしている。居室の入り口には表札を付れたり、トイレにも目印があり一目で分かるよう配慮している		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム こうえい愛宕館

作成日: 平成 29年 3月 22日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	25	利用者さんのニーズを明確にし、ケアの方向性など職員全員が画一的なケアの実践に取り組む	24時間365日、利用者さんに画一的なケアを実践する事で利用者さんに安心感を感じていただけるよう支援する、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に利用者さんに焦点を当て、利用者さんのニーズを確認する</li> <li>・日々の申し送り、伝達、情報共有、カンファレンス、勉強会等で職員同士情報を共有し合い、同じケアを提供できる様支援する</li> <li>・利用者さんのニーズに沿ったケアが出来るよう努める</li> </ul>	1年
2	38	柔軟な対応により、利用者さんが積極的に外出できる機会を持つ	可能な限り、利用者さんと共に積極的に外出し、社会で共に生活する喜びを感じられる様支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者さんの体調、身体状態に応じ花見、散歩、買い物等、希望する方には、出来る限り外出出来る機会を作る。</li> <li>・利用者さんの個別の希望に応じ、可能な限り積極的に外出できる様、シフトの編成等柔軟な対応を強化する</li> <li>・見当識障害により季節感を感じられない方の支援には五感に働きかけ、外の空気、気候などを感じて頂けるよう支援する</li> </ul>	1年
3	37	施設内の娯楽の充実	施設内の娯楽を充実し、室内でも楽しめるレクリエーションを提供する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内でのレクリエーションの充実(テーブルゲーム・体操等)</li> <li>・レクリエーションを通して楽しみながら筋力を維持できるプログラムの提案</li> <li>・外部からのボランティアを積極的に招き、余暇を頼んで頂く機会を作る(お茶会、ダンス、歌、踊りなど)</li> </ul>	1年
4	34	職員全員が緊急時、落ち着いて対応できるよう、日常的に確認し合い、環境整備を行う	緊急時の対応、訓練、環境整備の再確認を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者さん一人一人に合わせた主治医の確認症状、今後の危険因子等を職員同士で確認し合う</li> <li>・症状、状態の変化時には再度話し合い、確認を行う</li> <li>・救急隊、医療機関への確に情報を伝え、頻即な連携の強化に努める</li> <li>・職員全員が何時でも同じように緊急対応が出来る様、体制を強化する</li> </ul>	1年
5	18	定期的、利用者さんの変化毎に業務の見直しが必要である	利用者さんの状態の変化毎、業務を見直し、職員同士が共同しながら円滑に業務を遂行する事で利用者さんの生活を維持する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者さんの状態に合わせ、定期的に業務を見直し、無理、無駄な業務を減らし、円滑に業務を行う</li> <li>・時系列で業務のマニュアルを再確認を行う</li> </ul>	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900656		
法人名	NPO法人 こうえい会		
事業所名	こうえい愛宕館ユニットひかり館		
所在地	旭川市豊岡8条7丁目3-2		
自己評価作成日	平成29年3月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172900656-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172900656-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジент株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「アガペーとスキル」の実践 利用者さん一人一人が安心して生活できるように。人格を尊重しその人らしく生活できるように。笑顔と笑いが絶えない毎日が送れるように。 職員のケアの質の向上のため、月1回の3ユニット合同の勉強会開催。 内外の研修会に積極的に参加を勧め研鑽を積む体制。 職員がスキルアップを目指す体制(資格取得に事業所から助成あり)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点)
---------------------------

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内にこうえい会独自の理念を掲示し、各職員も携帯サイズを持って意識を高めている。また、折に触れ勉強会や研修でも理念について確認する機会を設け、理念を元に話し合いが成され、職員は共有し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、可能な利用者さんは町内会の花植え、清掃、消防訓練等に参加することもある。ご近所の方とは日常的に挨拶をかわし、避難訓練には年1回、町内の方にも声をかけ、参加して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等、地域の方に参加して頂き、具体的なケアの方法、実践、事例等を報告し、意見交換をして認知症の方の理解を求めている。また施設長が認知症の研修会で講師をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、ご家族、行政、地域の方の参加がある。会議で話し合われたこと、頂いた意見を、日々のケアに活かせるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修等に積極的に参加したり、運営推進会議での意見、情報交換など協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてこうえい会の規定があり、手に取って確認出来る様にしている。また外部研修会に参加して理解を深め、勉強会では職員全員で身体拘束に関する事柄を学び、拘束により利用者さんにもたらされる弊害を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に管理者はじめ、スタッフは交替で参加している。勉強会等で報告、共有し、職員が意識を深めることが出来る様に学ぶ機会を設け、自分たちのケアを振り返り虐待に繋がらない様確認し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や勉強会で学んでいる。外部研修後は他の職員にも報告して制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には時間をかけ丁寧に説明している。説明後はご家族に不安や疑問を尋ね、相談を受け、理解、納得をして頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	折々に利用者さんからの意見を聞く、また不満や気持ちを引き出せるように関わり、改善できるところは改善に努めている。ご家族の意見、要望も、電話でのやり取りや、来館時に話しやすいよう関係作りにも努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の業務の中で職員からの意見、提案を随時聞き、吸い上げた意見を主任会議の場を持って行き、検討し運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップのために資格取得を応援している。資格取得のための研修には一部助成がある。外部研修等にも積極的に参加を促し、向上心を持って働けるように努めている。また休暇を取りやすく調整し、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人力量に合った研修を受ける機会を確保し、参加することを勧めている。月1回の勉強会では外部講師を招くことに加え、介護技術、認知症について等テーマを決めて学び、資格取得だけでなく、日々のケアの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	様々な内容の外部研修で他の施設の方と交流を持っている。勉強会でも他の施設の方、他業種の方の講演を企画している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には自宅などを訪問し、面談を行って聞き取り、情報収集しており、本人の希望を探りながら関係づくりに努めている。事前に見学をしてもらい、少しでも不安なく入居出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学して頂くことや自宅を訪問する事で、面談、聞き取りをして情報収集し、本人、家族の不安を受け止め、必要に応じて連絡を取り、信頼して頂ける様関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には見学して頂き、家庭訪問して状況を見極めるためにアセスメントしている。それに基づき必要な支援を確認しケアプランに反映している。訪問リハビリ、訪問歯科等のサービスも状況に合わせて利用できる説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身の回りの事や生活していく事に対し、それぞれ利用者さんの状態を見極めて、ご本人が中心で本人らしくいられる様に支援して共に暮らしている関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な電話連絡と面会時には本人の状況を伝え、ご家族の思いも尊重し、協力も頂いて、ご家族と共に支えて行けるよう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、長年診て頂いているかかりつけ医との関係も継続出来る様に支援する等、それぞれの状態に合わせて支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を把握し、良好な関係が築ける様に、職員が仲立ちとなって話題提供をしたり、活動を共にしている。行き違いがあってもトラブルにならない様に配慮し、支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居された利用者さんのお見舞いに出向くこともある。また亡くなられた利用者さんのご家族は、顔馴染みになった利用者さんの為に顔出しする事や、野菜やウエスなどを持ってきて下さること、介護サービスの相談を頂く事もある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における利用者さん同士の会話や職員との会話から得られる発言を把握し、都度情報を共有し検討している。本人の希望や意向に沿ったケアの実現に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントやご家族からの情報、日々の生活の中から本人の発言、昔の話を引き出すこと、また行動からその背景をアセスメントし、歩んできた過程を把握してケアに反映出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん一人一人の生活リズム、心身の状態、周辺症状など、職員同士で申し送りとその都度情報を共有し、一人一人の現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスで、本人の現状課題の把握とより良い暮らしの為に職員は意見を出し合っている。本人や家族からの要望、関係者からの意見、提案なども協議して、ケアプラン作成に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子、発言内容、ケアの実践とその結果、気づきなどを個別記録に記入し、また連絡ノートなども活用して職員は情報を共有している。カンファレンス等で見直し、より良いケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんの状況の変化などから生まれるニーズに対して、柔軟に対応できるように努めている。現在は訪問リハビリを利用している方もいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の花壇作り、清掃に参加し近所の方々と顔馴染みになっている。ショッピング、外食、喫茶店利用、花見、りんご狩りなど楽しめる機会を設け、生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選定は本人と家族の希望を聞き、定期受診もしくは往診を受けやすい体制を取っている。週1回の医療連携体制で、看護師からアドバイスを頂いてかかりつけ医に繋がっている。必要時にはご家族にも受診に同席してもらい、ご家族の希望も医療機関に伝える事が出来る様にしている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と週1回医療連携と24時間相談できる体制にあり、日々のケアの中で得た本人の体調の変化、気づきを相談し、医療の観点からアドバイスをもらっている。適切な処置、受診へつなげ、利用者の健康管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時において、病院と利用者さん、家族と連絡体制を整えて、必要な情報交換を行っている。入院生活の様子、治療の経過など頻回に訪問することや医療関係者より情報を得て、安心して治療を受けられ、早期に退院へとつなげる様に医療との関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時や状態の変化時に看取りについて本人、家族の希望を確認している。医療関係者の意見、事業所で出来る事を十分に話し合い確認し合って、ご本人がその人らしく穏やかに日々を過ごせるように、スタッフは出来る支援を行えるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で、救命救急の受講を定期的に行うことや、急変時や事故発生時に対応出来る様にシミュレーションを定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に避難訓練を行い、事業所の避難経路や消火器の場所の確認、チェックを行っている。運営推進会議時に訓練を行って、訓練の状況を地域の方に見て頂き、意見をもらい、協力を得る様に努めている。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格やプライバシーを尊重し、安心して生活できるように、言葉使い等ケアの内容に不適切なものはないかスタッフは確認し合い、周知できるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定する場面ではそれが出来る様に働きかけ、本人の思いを尊重し、希望に沿えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員側の都合を優先するのではなく、出来るだけ一人一人のペースを大切にそれぞれに合わせた生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容や地域の理髪店を利用して、利用者さんに喜んでもらっている。外出時には外出着に着替え、ご本人らしい装いで外出を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の片付け、調理の下ごしらえ、味見をしてもらうなど、利用者さんとの関わりの中で食事に対する楽しみを一緒に持っている。好物の確認、各自に合わせた提供方法、盛り付けの工夫で更に食欲を刺激している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表などを利用し、一人一人に対して状態を確認し、ケアを行っている。個々に合わせた食事量、具材の形態を整えて、栄養、水分摂取が確保出来る様に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、晩の口腔ケアを各自の状態に合わせて行っているが、人により拒否が強い時や毎回行えない時は、時間をずらすなど工夫して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄出来る様に排泄パターンを把握し、各自に合わせたケアを行っている。利用者さん一人一人の状態により、時間排泄誘導、排泄用品の選択など、失禁による自尊心が傷つかないように対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材、乳製品など取り入れている。排便サイクルをチェック表で把握し、自然排便が出来るように、下剤を調整をして各自の状態に合わせて便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	温泉気分を味わえる入浴剤や暖簾を用いて雰囲気を作り、環境を整えている。利用者との関わりを大切に、体調や気分などを考慮しながら、個々のタイミングを計り、入浴を楽しめるように行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、年齢も考慮して日中昼寝をして頂く方や、昼夜逆転しない様に適切な日中の活動量を増やす等個々に合わせた関わりをしている。一人一人の気持ちや思いを大切に、就寝準備にはゆっくり関わって安心して入眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容表をチェックし、目的、副作用を確認。錠剤が多く飲みづらい方には医師に相談し、粉碎する、服薬ゼリーを使用するなど飲みやすくして服用。また職員間でトリプルチェック体制を整え、服薬時には確認し合い誤薬が無い様に徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で台所仕事など本人の得意な事や持っている力を活かせるように支援している。園芸、菊の栽培、塗り絵、手指作業、カラオケ、卓球等でも楽しみ、張り合いのある生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月々可能な限り、外出支援をしている。また花見、リンゴ狩りや空港等遠出のドライブ、興味のあるイベント観覧など計画し実施している。外食や喫茶店を利用する等、各々の希望に合わせて個別対応している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの力に応じて数千円程度、自ら管理している方もいるが、大きな金額は事務所管理している。買い物時は個々の状態に合わせて自ら支払いして頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話を使えるようにしており、ご家族からの電話も取り次いでいる。自ら携帯電話を持っており、自由に電話連絡している方もいる。家族や友人との手紙のやり取りも出来る様に支援しており、ポストに投函に出たり、職員が代わりに投函して、絆を繋げている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調整や温度湿度の調整、職員の動き立ち振る舞いに気を配り、利用者さんが不快な思いにならないような環境作りに努めている。季節ごとに皆で作成した作品なども装飾し、季節感を感じ、居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの気分や状態に合わせてご自分で移動したり、職員が誘導している。それぞれが安心できる居場所になるように職員は関わり、工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使っていた馴染みの家具や思い出の品、写真などがあって、安心して居心地良く過ごして頂ける様に環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の歩行、利用するところには手すりがあり、床は段差、しきりはなく、分かりやすいように場所の表示をしたり、一人一人が安全に過ごせるよう工夫している。		

## 目標達成計画

事業所名 こうえい愛宕館ユニットひかり館

作成日：平成 29 年 3 月 22 日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	24	一人一人の認知症状、バックグラウンドを知り、理解を深める	スタッフは利用者さん一人一人の症状の把握と知識を深める。その人がとる行動のバックグラウンドを掘り下げてその人自身を深く知る	それぞれの認知症状の特性を知るため研修会への積極的な参加、勉強会での学び、書籍などを通して深める。その人自身を深く知るために、バックグラウンドの再確認とご家族の来館時には会話の中から生活歴の情報を引き出し、情報を共有してケアに生かし実践していく。	1年
2	21、55	居心地の良い環境作りと居室内の整理整頓	それぞれが安心して快適な生活を送れるように、お互いが支えあって生活できるよう、スタッフは環境作りに努める	スタッフ自身も利用者さんにとって環境であることを常に意識する。心地よい存在になるため、利用者さんを敬う言葉使い、声のトーン、立ち振る舞い等の接遇の向上を目指す。利用者さん同士の間関係も行き違いが発生しトラブル回避できるようにスタッフは間に入る。お一人お一人が大切な存在である事を伝えていく。またリビング、居室内は収納に工夫があり、常に整理整頓されて安全な導線確保に努める。	1年
3	48	一人一人の持つ力を支える	スタッフ本位のケアにならず、利用者さん本位のケアの実践	スタッフは利用者さん一人一人の持つ力を見極めて、介助過ぎず本人の持つ力を引き出し、励まし支える。それぞれの生活歴、持つ力を発揮してもらるように、日常の営みの中で調理や掃除等職員と共に行い、生活動作も維持できるように関わり、本人の続けている趣味活動を支えて行く。	1年
4	48	レクリエーションの充実	年間、月間のレクリエーションを企画し実践する。出来るだけ月1回は外出支援が出来るような体制を作る。外部からのボランティアを受け入れ催し物を行う事で生活をさらに楽しむ	毎日の体操の時間の継続。花壇やプランターを整備して園芸に取り組む。季節を感じさせるディスプレイを共に作り上げる。銀座商店街七夕祭りの七夕飾りは今年も賞を頂けるように皆で目標を持って取り組む。個々の興味に合わせた外出を計画し実行する。音楽療法、読み聞かせ等外部ボランティアの情報収集して招き、生活を潤おわせ楽しむ。	1年
5	26	チーム力の向上	職員がお互いに声を掛け合い、情報の共有、ケアの工夫の共有をすることでチームワーク良くケアが実践できる	職員間の情報の共有が出来るように、漏れがないように一人一人が意識する。出勤時には必ず伝達事項のチェックをして職務をスタートさせ、ケアの統一を行う。ケアあとの統一を損なう、あいまいな業務が発生しないように、ルールが必要な時には提案をして、よりケアの質が上げて利用者さんに還元していく	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。